

令和7年度学校評価報告書

令和8年3月26日
北海道美唄尚栄高等学校長

1 本年度の重点目標

- (1) 生徒の社会人基礎力の醸成
- (2) 生徒の学習意欲の向上を目的とした授業改善
- (3) 保護者・地域との連携・協働及び積極的な情報発信

2 自己評価結果・学校関係者評価結果と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校教育目標 重点目標	地域に必要とされる学校になることを目標に令和9年度の教育課程の再編を行っている。また、地域の方々と連携して探究活動をより活発にし、地域の課題について生徒が取り組むキャリア教育の推進に努めた結果、地域貢献に繋がっている。	学校存続のため、地域と連携した取組を更にさらに推進することが望まれる。 特に地元の小中学校と連携して本校の特徴を理解してもらうことが大切と感じる。
改善方策	令和9年度の教育課程では探究活動に関わる「総合的な探究の時間」及び「産業社会と人間」の他に「美唄学」を創設する。これらの活動を通して3年間をじっくりと生徒が課題を解決することを実践し、地域から信頼される学校、地域とともに成長する学校づくりを目指す。	
経営管理 校内組織	教職員が意欲的に伸び伸びと働ける職場環境を構築するために、報連相の徹底、分掌及び年次内の合議による起案の徹底、生徒情報の共有等連携を強化したことにより、今までより風通しのよい職場環境になったと考える。	恵まれた施設、設備を十分に活用した、各系列の特色ある教育活動を進めている。 新年度は学校での取組をより地域に周知し、美唄市長を始めとする地域の協力をもらいながら新たな学校づくりを進めてほしい。
改善方策	今年度の取組により教職員間の協働体制は高まったが、授業の持ち時数や個々の業務を言い訳にしないより強固な連携をするための教職員の意識改革を促す。また、業務の偏りを解消するための業務のスマート化及び組織力の強化を実践する。	
学習指導	ICTの活用を推し進め、ほぼ全員の教員が授業改善を進めている。校内研修も隔月ごとに行い、評価についての改善にも取り組んだ。	生成AI等を授業実践に取り入れるために、地域の人材を通じて学校の活性化につなげてほしい。
改善方策	観点別学習状況の評価について更に研究を進め、学ぶ喜びを感じさせ達成感のある授業づくりを推進する。令和8年度から英語と数学の基礎科目を設置し、生徒の基礎学力の定着を図る。	
生徒指導	教育相談や生徒の情報交換を毎月行い、教育相談・特別支援委員会を通じて生徒の情報共有に努めた。また、防犯対策について力を入れ、生徒の危機管理意識の醸成を育んだ。	多様な生徒が入学してくる中、地域と連携した取組や教職員のスキルアップが問われている。本校に入学した生徒の育成のために教育資源を活用した生徒の育成に努めてほしい。
改善方策	担当者が教育相談をするだけでなく、担任を中心とした面談を実現し、個々の生徒や保護者に寄り添った傾聴及び指導を実践する。	
進路指導	総合学科の特色である「産業社会と人間」をはじめとするキャリア教育の取組及び各系列の特色ある取組による生徒のスキルアップを通じて進路実現につなげることができた。	進路実現に関して就職地域と連携したキャリア教育により、積極的に説明会等に参加していることは非常に有意義なことである。今後は大学進学への推薦枠等を活用した上級学校への進学率を高めてほしい。
改善方策	多様な進路希望に対応する教職員の意識改革と、地域に求められる上級学校への進学希望者の増加及びその手段についての指導方法について研究・実践する。	
地域との連携	探究活動では関係機関の方々の協力を得て、地域に対し定期的な報告会や発表会を開催することができた。各系列が協働で開催する「尚栄高校フェア」は2度開催し、本校の教育活動について地域に発信する機会をもうけることができた。 さらにHP、SNS、Note等での広報活動を拡大し、報道機関でも積極的に本校の取組を紹介していただき、学校のPR活動を強化した。	探究活動を始めとする生徒が自ら地域に出て学ぶ活動は主体性や創造性を育む素晴らしい取組だと考える。学校を取り巻く地域の教育資源を大いに活用し、生徒の自己肯定感を高めてほしい。
改善方策	令和8年度は、令和9年度の教育課程での「美唄学」の創設による地域の課題についての取組、時代のニーズに合わせた系列の再編を柱とし、生徒の多様なニーズに答えるための本校独自の特色ある教育実践を実現するとともに、地域に発信する本校の取組を常に新しいものに書き換え、広報活動を活性化する。	
公開方法	自己評価と学校関係者評価の評価項目・評価結果を学校ホームページに掲載する。	